

森と海の自然科の皆さん

旧大和川(平野川)と淀川の合流地点周辺の探訪

大和川流域の観察は早や 3 年の月日が経ちました。2016 年度は旧大和川（玉串川・長瀬川・平野川）周辺を歩き、大阪平野の地形並びに過去の歴史や文化に思いを馳せました。平野川周辺（平野郷・平野環濠など）は昨年末に訪れる予定でしたが諸事情により取り止めました。が、今回は大和川シリーズの最終回として淀川に合流する平野川と大川を OMM ビルの屋上から俯瞰したあと、上町台地の先端部分の地形を最大限に活かして築城された大坂城の惣構えの痕跡を探ってみます。平野川は大川とともに大坂城の北の惣構えであった。また、西の惣構えであった東横堀川を歩いて往時を偲びながら、街歩きを楽しみたいと思います。

記

日 時 : 2017 年 1 月 26 日 (木) 雨天決行
集 合 : 地下鉄谷町線「天満橋」北改札口 午前 10 時
持ち物 : 飲物、観察用具、雨具など（昼食は高麗橋近くの中華料理店を利用）
行 程 : 地下鉄「天満橋」⇒OMM ビル⇒八軒屋浜⇒坐摩神社行宮⇒葭屋橋⇒
大坂銀座跡⇒高麗橋(昼食)⇒東横堀水門⇒平野橋⇒大手橋(思案橋)⇒
旧西町奉行所⇒本町橋⇒農人橋⇒太閤下水⇒地下鉄「谷町 4 丁目」(解散)
昼 食 : 「味宝楼・北浜店」で AM11:30 からランチ定食(税込み 800 円)を予約しています。※この近辺には弁当を食べる場所がなく、多人数が手早く食事ができるように予約を入れました。メニューは事前に希望を聞いて注文します。
また、このビルで手洗いも済ませてください。

当日は「大阪おもしろ案内人・沖本 然生さん」に案内をしていただきます。

*八軒屋浜

八軒家浜は江戸時代に京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する船着場として賑わいました。江戸時代、天神橋と天満橋に挟まれた大川南岸が八軒家と呼ばれた。八軒家には京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する船着場があり、淀川における貨客輸送のターミナルであった。道沿いには旅籠や問屋が並び、船着場は旅人や運送にかかわる人々、客を呼び込む人たちの喧騒に包まれていた。そのような落語『三十石』や十返舎一九の『東海道中膝栗毛』にいきいきと描かれている。三十石船は八軒家と京・伏見の間、十一里余(約 45km)を上り一日、下り半日で運航し、江戸時代を通して貨客輸送の中心を占めた。明治三年(1870 年)に蒸気汽船が就航すると三十石船は衰退し、明治四三年(1910 年)に京阪電気鉄道が天満橋－京都五条間に開通して、八軒家は淀川の貨客輸送のターミナルの役目を終えた。

＊坐摩神社行宮

熊野街道の陸の出発点、九十九王子の第一社、窪津王子（渡辺王子）跡とされる場所である。元あった坐摩神社は広大な敷地を有していたようだが、天正 11 年（1583）、豊臣秀吉が大坂城築城の際に移転させられました。この地は神功皇后が新羅より御帰還の折、御休息されたといひます。

＊葭屋橋

俗に築地と呼ばれた蟹島遊廓への通路として設けられた橋。この遊廓は天明 4 年（1784）、葭屋庄七らによって開発されたもので、橋も天明年間（1781～1789）に架設されたと考えられています。蟹島の地は大川の眺望が非常によく、料理屋、旅館などが建てられ発展しました。近年、東横堀川の玄関として、船の運航ルール標識が川に面して設置されました。

＊大坂銀座跡

東京の数ある繁華街の中でも長い歴史と風格を持つ高級商店街・銀座。1601 年、京都・伏見に設けられた銀貨鑄造所が始まりとされている。

伏見銀座は 1608 年に京の室町と烏丸の中間地点辺りに移され、時を同じくして大坂にも銀座が設けられる。大坂銀座は銀貨鑄造所ではなく、生野銀山や石見銀山からの銀を集積して京の銀座に送ること、そして大坂の商人の間でやり取りされ古くなった銀貨を回収して、新しい銀貨と交換することなどが主な役割であった。

＊高麗橋

橋の名の由来は、古代に朝鮮半島諸国の使節を迎えた「高麗館（こまのむろつみ）」があったからという説と、豊臣秀吉の大坂町割りの際、この辺に朝鮮との交易の拠点があったという説など、多数ある。豊臣秀吉が大坂城を築城した際に、東横堀川が同城の外堀として整備された。高麗橋はその際に架けられたと言われている。江戸時代には東海道の終着である京（京都）と大坂を結ぶ京街道（大坂街道）の起点が京橋から移されて、後には中国街道など大坂と地方を結ぶ街道がこの橋まで延伸された事から、大坂の玄関口として整備された。江戸幕府もこの橋を重要視し、公儀橋として直接管理している。さらにこの脇に高札場を設置している。明治維新後、明治政府はここに里程元標を置き、西日本の道路の距離計算の起点となった。明治 3 年（1870 年）に大阪で初めての鉄橋として架け替えられた。

＊東横堀水門

平成 12 年（2000）に完成した東横堀川水門は、道頓堀川水門と対になっている閘門です。

①門の前後で水面の高さが違う時に水門内で水位の調整を行い船舶を航行させる。

②大雨や高潮で水位が上昇する時は水門を閉めて浸水被害を防ぐ。

③潮の干満を活かして門を開閉して水質を綺麗にする。

＊平野橋

江戸時代、平野橋を東にいったところに神明神社、西にいったところに御霊神社があり、その門前の盛り場として賑わっていた。1 と 6 のつく日に定期的市が開かれる。平野橋両側の町名は旧町を

そのまま受けついでおり、東側は「内平野町」、西側は「平野町」という。このことから、東横堀川の東側は大阪城の“内側”だったということが分かります。

＊大手橋(思案橋)

橋の東側をまっすぐ行くと大阪城の大手門に通じる大手橋。古くは思案橋と呼ばれていました。西側は行き止まり、北（淡路町通）へか、南（瓦町通）へ行くか思案するところから命名されたとか。豊臣秀吉が五奉行の一人、増田長盛に、この橋の名前を付けるよう命じた時、思案してもなかなか決まらなかったことからとの説もあります。橋の一つ北側の通り内淡路町に忠臣蔵で有名な天野屋利兵衛の邸があったと言われています。

＊旧西町奉行所

慶応4年鳥羽伏見の戦いで徳川慶喜将軍が同月6日大坂城を脱出したことにより、大阪は奉行所等の権力組織が解体し、無政府状態となった。朝廷側は長州藩や薩摩藩兵を進駐させて治安回復に当たらせるとともに、同月22日「大阪鎮台」という軍政機関を置き、大阪・堺周辺の幕府領を収用した。これが今の大阪府の起源となる。

大阪鎮台は同月27日に「大阪裁判所」と改称して2月2日に旧西町奉行所に庁舎を置き、さらに5月2日に「大阪府」と改めた。従ってこの旧西町奉行所建物が初代の大阪府庁舎。

＊本町橋

現役の橋としては、大阪市内、現役最古の橋で100年以上になる。豊臣秀吉が大坂城築城に際して東横堀川を外堀として開削した時に架けられたと考えられている。現在でも川幅が大きいと思うが江戸時代のころの東横堀の幅は現在よりも広く、本町橋も橋長が47.8mあったという。

＊農人橋

橋名の由来について『摂津名所図会大成』には、「いにしえより農民が田畑へ行き通うための橋で、土橋と同じような形式であったが、寛永・正保の頃（1640年頃）までは船場には田畑や芦原などが多くあって、（中略）寛永年間、急速に発展していく。これに伴って橋も高欄擬宝珠をもった立派な造りとなった。」とある。公儀橋でも日常の維持管理は、橋周辺の町々に課せられていた。

＊太閤下水

豊臣秀吉による大坂城築城の際に原型が造られたと言われている石積の下水溝です。豊臣秀吉が大坂城築城に着手したのは、天正11年（1583年）のことでした。町づくりにあたっては、大阪が、淀川・大和川のデルタ地帯にできた低湿な土地であったので、道路整備と同時に町屋から出る下水を排水するための下水溝が建設されました。

東西の横堀川に囲まれた城下町は、大坂城に向かう東西道を軸に基盤の目に区切られ、その道路に面した建物の背中どうしのところ（裏口）に下水溝が掘られました。この下水溝は「背割下水」、あるいは太閤秀吉にちなんで「太閤下水」と呼ばれています。当時の大阪は、この太閤（背割）下水に挟まれた約40間（72m）四方の区画が町割りの基本となっていました。

2017/01/26 東横堀川案内図





大和川シリーズ 23 東横堀川と大坂の歴史探訪

- 1: 日 時 2017年1月26日(木曜日) 天気 晴 歩行数 12000歩
- 2: 参加者 13名
- 3: 案 内 「大阪おもしろ案内人・沖本 然生さん」に案内をお願いしました
- 3: 行 程 地下鉄谷町線「天満橋」北改札口 午前10時集合 ⇒ OMMビル⇒八軒屋浜⇒坐摩神社行宮⇒高麗橋⇒「味宝楼・北浜店」で昼食⇒葎屋橋⇒東横堀水門⇒平野橋⇒大手橋⇒旧西町奉行所⇒本町橋⇒農人橋⇒太閤下水 (解散) 三々五々、「谷町4丁目」、「堺筋本町」など最寄駅へ
- 天満橋駅コンコースで地下鉄路線案内図を利用して、沖本氏のレクチャーがスタート。案内図の路線毎のカラーについて連想イメージとなぜその色になったかのいわれの解説でにぎやかにスタート
- 大川、平野川、東横堀など大阪城をめぐる位置関係がよくわかるという OMMビル屋上へ向かうが、当日は屋上凍結で危険ということでエレベーターホールから屋上へ出られず・・・残念
- 八軒屋浜へ。京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する船着場だった。旅籠や問屋が並ぶ天神橋と天満橋に挟まれた大川南岸が八軒家と呼ばれた。
- 坐摩神社行宮(イカスリ神社またはザマ神社)。熊野街道の陸の出発点、九十九王子の第一社、窪津王子(渡辺王子)跡とされる場所
- 高麗橋。江戸時代には東海道の終着である京(京都)と大坂を結ぶ京街道(大坂街道)の起点が京橋から移されて、後には中国街道など大坂と地方を結ぶ街道がこの橋まで延伸されたことから、大坂の玄関口として整備された。江戸幕府もこの橋を重要視し、公儀橋として直接管理している。さらにこの脇に高札場を設置している。明治維新後、明治政府はここに里程元標を置き、西日本の道路の距離計算の起点となった。明治3年(1870年)に大阪で初めての鉄橋として架け替えられた。
- 西へ、堺筋も越えて中華の「味宝楼・北浜店」でランチ。町歩きならではの暖かい屋内でのランチ。Good!
- 昼食後、東横堀川が大川と分岐する地点の葎屋橋(ヨシバシ)へ。蟹島遊廓への通路として設けられた橋。この遊廓は天明4年(1784)、葎屋庄七らによって開設された。
- 葎屋橋から東横堀沿いに南下、再び高麗橋を經由、東横堀水門へ
- 東横堀水門。2000年完成。道頓堀川水門と対になっている閘門。
①門の前後で水面の高さが違う時に水門内で水位の調整を行い船舶を航行させる。
②大雨や高潮で水位が上昇する時は水門を閉めて浸水被害を防ぐ。③潮の干満を活かして門を開閉して水質を綺麗にする。という3つの機能を持つ
- 平野橋。平野橋両側の町名は旧町を受けついでおり、東側は「内平野町」、西側は「平野町」。東横堀川の東側は大阪城の「内側」だったということが分かる。近くの珍味卸店でショッピング休憩。
- 大手橋(思案橋)。橋の東側をまっすぐ行くと大阪城の大手門に通じる大手橋。古くは思案橋と呼ばれていました。西側は行き止まり、北(淡路町通)か、南(瓦町通)へ行くか思案するところから命名されたとか。豊臣秀吉が五奉行の一人、増田長盛に、この橋の名前を付けるよう命じた時、思案してもなかなか決まらなかったことからとの説もある。橋の一つ北側の通り内淡路町に忠臣蔵で有名な天野屋利兵衛の邸があったと言われている。その碑がマイドームおおさかの北西角の向いの東横堀沿い緑地にある
- 旧西町奉行所跡(初代大阪府庁舎)。慶応4年1月6日徳川慶喜が大坂城を脱出、朝廷側は1月22日「大阪鎮台」を置き、「大阪裁判所」と改称、2月2日に旧西町奉行所に庁舎を置き5月2日に「大阪府」と改めた。この旧西町奉行所が初代の大阪府庁舎。(2代目は江之子島に)
- 本町橋。近くで「昔なつかしいアイスクリーム」休憩。
- 農人橋。東横堀川がクランク状に曲がっている所。昔は流れも速かったという説がある。阪神高速道路の高架下に「曲がり淵地藏尊」金網に囲まれた地藏尊!
- 太閤下水。豊臣秀吉による大坂城築城の際に原型が造られたと言われる石積の下水溝。東西の横堀川に囲まれた城下町は、大坂城に向かう東西道を軸に基盤の目に区切られ、道路に面した建物の背中(裏口)に下水溝。「背割下水」、あるいは「太閤下水」と呼ばれています。きれいな水が勢いよく流れていました

